

# 令和 2 年度事業報告

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

# 目 次

## 概説

- I 囲碁普及事業（公益目的事業1）
  - 1 棋戦事業
  - 2 棋士育成事業
  - 3 囲碁普及と囲碁指導
    - 3-1 青少年等への囲碁普及
    - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
    - 3-3 海外への囲碁普及
  - 4 囲碁対局環境の提供
  - 5 段級位認定
  - 6 囲碁大会の開催
    - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
    - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
    - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
  - 7 表彰
  - 8 囲碁関係情報提供
  - 9 囲碁殿堂資料館
  - 10 各拠点での活動
    - 10-1 有楽町囲碁センター
    - 10-2 関西総本部
    - 10-3 中部総本部
    - 10-4 海外囲碁センター
- II 収益事業
  - 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
  - 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
  - 3 販売品、書籍事業（収益事業3）
- III 管理部門
  - 1 コンプライアンス
  - 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
  - 3 広報対応と棋士のメディアへの露出
- IV 「100周年ビジョン」の推進（別紙）

## 付記

- 役員等に関する事項
- 令和2年度 事業報告

## 概説

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

## I 囲碁普及事業（公益目的事業1）

### 1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の様子は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

令和二年度は、井山裕太三冠とその次の世代である芝野虎丸九段、一力遼九段を中心に各棋戦が行われました。十段戦では、村川大介十段に芝野虎丸名人との挑戦手合となり、挑戦者の芝野名人が十段を獲得、芝野名人は名人、王座とあわせて三冠となりました。碁聖戦では前年、8期ぶりに碁聖を獲得した羽根直樹碁聖に一力遼八段が挑戦し、一力八段が七大タイトルを初めて獲得しました。8月からの名人戦では昨年、史上最年少で名人を獲得した芝野虎丸名人に井山裕太碁聖が挑戦し、井山碁聖が名人を獲得しました。天元戦では、5連覇をしている井山裕太天元に一力遼碁聖が挑戦し、挑戦者の一力碁聖が天元を獲得し、碁聖とあわせて二冠となりました。

これらを含めた棋戦（挑戦手合、決勝）の結果は以下の通りです。

（段位は対局当時。棋戦名、期・回数、棋戦の形式、主催や協賛社名、対局者と結果。棋戦形式無記はトーナメント戦）

- (1) 碁聖戦（第45期 挑戦手合七番勝負 読売新聞社）  
井山 裕太 碁聖 — 河野 臨 九段  
（井山裕太 碁聖が4勝1敗で碁聖位を9連覇）
- (2) 名人戦（第45期 挑戦手合七番勝負 朝日新聞社）  
芝野 虎丸 名人 — 井山 裕太 碁聖  
（井山裕太 碁聖が4勝1敗で名人位を奪取）
- (3) 本因坊戦（第75期 挑戦手合七番勝負 毎日新聞社）  
井山 裕太 本因坊 — 芝野 虎丸 名人  
（井山裕太 本因坊が4勝1敗で本因坊位を9連覇）
- (4) 王座戦（第68期 挑戦手合五番勝負 日本経済新聞社）  
芝野 虎丸 王座 — 許 家元 八段  
（芝野虎丸 王座が3勝1敗で王座位を連覇）
- (5) 天元戦（第46期 挑戦手合五番勝負 新聞三社連合）  
井山 裕太 天元 — 一力 遼 碁聖

- (一力遼 碁聖が3勝2敗で天元位を奪取)
- (6) 碁聖戦 (第45期 挑戦手合五番勝負 新聞囲碁連盟)  
羽根 直樹 碁聖 — 一力 遼 八段  
(一力 遼 八段が3勝0敗で碁聖位を奪取)
- (7) 十段戦 (第58期 挑戦手合五番勝負 産経新聞社)  
村川 大介 十段 — 芝野 虎丸 名人  
(芝野虎丸 名人が3勝1敗で十段位を奪取)
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦 (第27期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)  
井山裕太 本因坊 — 山下 敬吾 九段  
(井山裕太 本因坊が勝ち5回目の優勝)
- (9) 新人王戦 (第45期 しんぶん赤旗)  
佐田 篤史 七段 — 関 航太郎 三段  
(関航太郎 三段が2勝1敗で新人王を獲得)
- (10) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第68回 NHK)  
一力 遼 天元 — 余 正麒 八段  
(一力遼 天元が勝ち2回目の優勝)
- (11) 竜星戦 (第29期 囲碁将棋チャンネル)  
一力 遼 竜星 — 井山 裕太 棋聖  
(一力遼 竜星が勝ち3連覇)
- (12) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第7回 グロービス)  
李 維清 八段 (中国) — 文 敏鍾 二段 (韓国)  
(文敏鍾 二段が勝ち初優勝)
- (13) 女流本因坊戦 (第39期 挑戦手合五番勝負 共同通信社)  
上野 愛咲美 女流本因坊 — 藤沢 里菜 女流立葵杯  
(藤沢里菜 女流立葵杯が3勝2敗で女流本因坊位を奪還)
- (14) 会津中央病院杯・女流立葵杯 (第7期挑戦手合三番勝負 温知会)  
藤沢 里菜 女流立葵杯 — 鈴木 歩 女流棋聖  
(藤沢里菜 女流立葵杯が2勝0敗で女流立葵杯を4連覇)
- (15) 女流棋聖戦 (第24期 挑戦手合三番勝負 NTTドコモ)  
鈴木 歩 女流棋聖 — 上野 愛咲美 扇興杯  
(上野愛咲美 扇興杯が2勝1敗で女流棋聖位を奪還)
- (16) 扇興杯女流最強戦 (第5回 センコーグループホールディングス)  
上野 愛咲美 女流本因坊 — 謝 依旻 六段  
(上野愛咲美 女流本因坊が勝ち優勝)
- (17) 博多・カマチ杯女流オープン戦 (第1回 埼玉巨樹の会)  
上野 愛咲美 女流本因坊 — 藤沢 里菜 女流立葵杯  
(藤沢里菜 女流立葵杯が勝ち優勝)
- (18) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦 (第3回 センコーグループホールディングス)

崔 精 九段 — 於 之瑩 六段

(於之瑩 六段が勝ち3連覇)

(19) 王冠戦 (第61期 挑戦手合一番勝負 中日新聞社)

伊田 篤史 王冠 — 大竹 優 四段

(伊田篤史 王冠が勝ち王冠位を5連覇)

(20) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第15回 広島アルミニウム工業)

孫 喆 七段 — 藤沢 里菜 四段

(藤沢 里菜 四段が勝ち優勝)

(21) S G W杯中庸戦 (第3回 セントグランデW)

16名のリーグ戦。金澤秀男八段が優勝

(22) おかげ杯囲碁トーナメント戦 (第11回 濱田総業)

一力 遼 天元 — 伊田 篤史 八段

(一力遼 天元が勝ち優勝)

(23) 海外棋戦

海外棋戦では、L G 杯、三星火災杯、春蘭杯、応氏杯、農心杯、呉清源杯、乙級リーグ (中国) などに参戦しました。

平成 25 年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『G O ・碁・ジャパン』を結成し、8年目を迎えました。

令和 2 年度も監督、コーチ、選手の総勢 53 名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。コロナ禍ということもあり、海外棋戦は中国、韓国への往来ができず、ネットでの対局となりました。コロナ禍のため、例年実施をしておりました棋力強化合宿は実施できず、チーム参加棋士の棋力強化に向けて、ナショナルチームメンバーによる定期研究会を行いました。

また、「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、2 年度はファンの皆様から 293 件、6,290 千円の募金がありました。募金は、海外渡航がなく、強化合宿も行えなかったため、主に海外棋戦出場選手の国内移動経費に活用しましたが、剰余金として、5,774 千円を令和 3 年度に繰り越し、次年度のナショナルチーム強化に向けた活動に使用いたします。

## 2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のための環境を整えました。

### (1) 院生強化育成 (院生研修)

棋士を目指す約 70 人の院生を A から D クラスに分け、毎週土・日曜日 (8 回/月) に研修を東京本院・関西総本部・中部総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法

から棋士としての心得などの指導を行いました。ただし、令和2年度はコロナウイルス感染予防のため、4、5、6月期を休止しました。再開後もソーシャルディスタンスを留意し、細目に手洗い・消毒をするよう院生に指示するなど感染予防に努めました。院生研修は棋士採用に紐づいており、院生たちが棋士を目指す環境づくりにも感染予防に注意しながら努めました。

## (2) 棋士採用（研修・試験）

(1) で記したように院生研修は棋士採用に紐づいています。

正棋士1名が採用される夏季採用枠は例年東京本院で4月・5月・6月に行われる院生研修の総合成績で決まりますが、今年は上記の通り、院生研修が休止だったため、7月・8月・9月の総合成績で採用者を決めました。

関西総本部・中部総本部においても各年毎に院生研修の成績で総合1位の院生を各総本部の所属棋士として採用する制度があり、令和3年度は関西総本部で実施され、1名採用されました。

8月から11月まで東京本院では冬季採用試験を実施。外来受験者・院生計28名が参加し、上位2名が合格しました。また関西総本部・中部総本部においても各年毎に外来受験者を交えた同様の採用試験があり、上位1名が各総本部の所属棋士として採用されます。令和3年度は中部総本部で実施され、12名が参加し、1名が関西総本部所属棋士として採用されました。

また女流特別採用棋士を採用する試験も12月から実施しており、外来・院生計13名が参加し、1名が採用となりました。

## (3) 棋士採用（推薦）

(2) の試験とは別に棋士になる方法として推薦制度があります。

一昨年度、囲碁普及活動の増進と女流碁界の拡充のため導入された女流特別採用推薦制度は、院生及び院生経験者が対象となり、下記の1から3の条件のいずれかに該当すれば院生師範によって推薦されます

1. 東京本院において同一年内に院生研修Aクラスに5か月以上在籍した者
2. 冬季採用試験本戦において5割以上の成績を挙げた者
3. 上記の1及び2に準ずる成績を収め、かつ将来を嘱望され、所属の院生師範全員の推薦があった者

令和3年度は上記の基準に照らし、中部総本部と関西総本部から各1名推薦され、両名とも採用されました。

英才特別採用推薦棋士制度は女流特別採用推薦制度と同じく昨年度導入された制度です。棋道の継承発展、内外への普及振興を目的とするもので、囲碁世界戦の優勝を目指すなど、最高レベルの棋士となるべく、候補者の実績と将来性を評価し、日本棋院の現役7大タイトル保持者および、ナショナルチーム監督とコーチ3分の2以上の賛成により、採用されます。対象は原則として小学生なため、条件は厳しく、令和3年度は採用がありませんでした。

外国籍特別採用制度は囲碁の海外普及を目的として推薦制度で、日本・中国・韓国・

台湾・北朝鮮以外の国籍を持つ院生及び院生経験者が対象で、冬季棋士採用試験において5割以上の成績を収めるなどの条件を満たすと院生師範によって推薦され、採用されます。令和3年度は該当者がおらず、採用者がいませんでした。

上記の採用制度で令和3年度に入段したものは下記のとおりです。

- ・ 東京本院 夏季採用 (1名) 竹下 凌矢
- ・ 本院 冬季採用 (2名) 並木 響、田中 佑樹
- ・ 関西本戦採用 (1名) 三戸 秀平
- ・ 中部本戦採用 (1名) 中濱 孝ノ輔
- ・ 女流特別採用 (1名) 徐 文燕
- ・ 女流特別採用 推薦 (2名) 鈴川 七海、安田 明夏

#### (4) 若手棋士育成

囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に18歳以下(女流棋士は20歳以下)の若手棋士26名が登録・参加。

コロナ禍のため、棋力強化合宿は行えませんでした。定期研究会を毎週土曜日(4・5月は水・土曜日)に実施し、ナショナルチームの活動を広く囲碁ファンにご理解頂くため、対局の様子をネット対局「幽玄の間」で公開いたしました。

### 3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

#### 3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

##### (1) 囲碁入門・初級教室の実施

###### ① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ341名の棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

###### ② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

##### (2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開しています。しかしながら新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年度は限定的な実施に留まっています。小・中・高校の正課授業として36校の8,048人、正課授業以外として39校で10,153人が参加いたしました。

令和2年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおりです。

**北海道**：岩見沢市立第一小学校他4校、**秋田県**：能代市立二ツ井小学校他4校、**埼玉県**：

さいたま市立指扇小学校他 1 校、千葉県：市川市立市川小学校、東京都：品川区立浅間台小学校他 14 校、愛知県：長久手市立西小学校他 2 校、岡山県：岡山市立岡北中学校、島根県：大田市立仁摩小学校、佐賀県：佐賀市立南川副小学校他 2 校

#### 〈主な行政囲碁事業の取り組み〉

【東京都中央区】 平成 24 年から区内の 4 つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、令和 2 年度は 8 校の小学校で、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

【東京都品川区】 放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校 37 校のうち、2 校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

#### （3）学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、学校囲碁指導員講習会を実施していますが令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大のため未実施となりました。

#### （4）大学での囲碁授業の導入

##### ① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年より、東京大学教養学部と連携して 1、2 年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し、大学囲碁授業のモデルケースとなっています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを継続的に行っています。

##### ② 新たに福井大学において囲碁授業を開始

これまで囲碁授業開講をしていた東京大学、東邦大学、早稲田大学、慶應義塾大学、青山学院大学、東京工業大学、筑波大学、京都大学、名古屋大学、福山大学、一橋大学、神奈川大学、大阪大学、日本農業経営大学校、東京学芸大学、九州大学、東京理科大学、愛知学院大学、名古屋市立大学、神奈川工科大学、群馬パース大学、千葉経済大学、立教大学、千葉大学、弘前大学、島根大学、高崎健康福祉大学、尾道市立大学、北海道大学に加え、福井大学が新規開講し、合計 30 大学等となりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴いオンラインでの授業が大半となりましたが、オンライン授業が難しいため開講を見送った大学もありました。日本棋院は囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。

令和 3 年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に行い、前年に開講しなかった大学も再開する予定です。

#### （5）がっこう囲碁普及基金の活用

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと

「がっこう囲碁普及基金」を創設し、小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。令和2年度は323件、12,708千円のご支援をいただきました。

#### (6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成17年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。令和2年度は、21社よりご支援を頂きました。

### 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

#### (1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

#### (2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

#### (3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で3,622局の指導碁を実施しました。特に5月5日に行った15周年キャンペーンの指導碁では1日に366局を行いました。

#### (4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により大幅に派遣件数が減少しました。国内で16件実施し、延べ28人の棋士を派遣しました。

#### (5) 囲碁未来教室の開催

月刊誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等、全国141カ所で囲碁未来教室を開催しました。

#### (6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、地域の県本部と連携し、全国各地で囲碁イベントを実施する等、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国8カ所で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、全地区で開催を中止しました。現状報告、全国の普及活動共有のためオンライン意見交換会を行いました。

○ 第41回普及功労賞

- ・ 吉川 謙造（青葉中央支部長）
- ・ 中島 史雄（石川県支部連合会会長）
- ・ 川邊 展央（三重県支部連合会参与）
- ・ 藤山 和登（京都中央支部幹事長）
- ・ 松浦 茂（讃棋支部幹事長）

○ 第39回普及活動賞

- ・ 全国で41名を表彰

○ 令和2年度優秀支部表彰

- ・ 支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）1,382P
- ・ 会員増十傑 一位 囲碁ラボ支部（兵庫県）13名

(7) 留学生対象の囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、6月14日及び2020年1月21日に囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されています。囲碁の授業は2005年より始まり、今年度で13回目を迎えました。

(8) 2019年度中国大学生訪日団第2陣との囲碁交流

本訪日団は、外務省が推進する「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として中国から招聘され、日中友好会館が実施。団員構成は、スポーツ（卓球、バドミントン、囲碁）及び映像・撮影、美術を学ぶ中国大学生・大学院生の135名、その内、囲碁を行う約30名は11月13日、日本棋院市ヶ谷本院に来院し、日本の大学生との囲碁交流対局を行いました。

### 3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(1) イベントの開催

コロナ禍で5月に東京で開催を予定されていた世界女流アマ囲碁選手権戦は中止、代わりにUKAI杯世界女流アマネット囲碁選手権戦2020をネット対局「幽玄の間」で11月末から12月20日まで開催しました。世界33か国地域から各代表計33名が参加し、結果、中国代表の閻語盈（エン・ユーエイ）選手（22歳）が優勝しました。

(2) 棋士の海外派遣

世界的コロナ禍の影響で海外への棋士派遣はすべて中止になりました。

(3) オンラインコンテンツ配信

コロナ禍の為、外国人囲碁ファンの為のオンラインコンテンツ（英語）を制作し、11月と2月に日本棋院囲碁チャンネル(YouTube)にて配信しました。マイケル・レッドモンド九段のAI講座（全6回）と、アンティ・トルマネン初段へのインタビューと自戦解

説（全2回）を配信しました。

#### 4 囲碁対局環境の提供

インターネット通信対局「幽玄の間」や日本棋院の各施設における一般対局場の運営に加え、オンライン講座の新規開設等を通じて誰にでも囲碁が楽しめる環境を提供し、囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

##### （1）オンライン講座の開始

対面での講座に代わるものとして、プロ棋士によるオンライン講座を開始しました。オンラインを活用することで、これまで囲碁に触れてこなかった新規ファン層の獲得と、外出を控えている旧来の囲碁愛好者の呼び戻しを目指しています。担当プロ棋士の個性を生かし、入門講座から最先端のAI解説まで多岐にわたるラインナップを用意し、2020年10月から2021年3月までの52開講に延べ1,288名が参加しました。見逃し配信といった追加サービスも好調で、きめ細かなサポート体制により、リピーターの数を増やしています。

##### （2）一般対局場の運営維持

新型コロナウイルスによる来場者減少の影響は甚大ですが、アマチュア囲碁界のもっとも基本的なインフラとして、いつでもどなたでも気軽に立ち寄り対局できる一般対局場の維持に努めました。感染対策としてスタッフによる盤石机椅子の定期的な消毒、お客様用アルコール消毒液の設置、来場者全員の検温、対局者間の飛沫を防止するパーティションの設置、アルコール消毒が可能なガラス碁石・ゴム製碁盤の使用、定員を従来の半分以上に絞った広いレイアウトの採用、毎日の全来場者情報の収集といった施策を実施し、少しでも多くの来場者が安心して楽しめる環境づくりに力を注ぎました。

休館の影響とその後の外出自粛により各施設の延べ来場者数は大きく減少しているものの、徐々に復調の傾向にあります。東京本院の対局場来場者数は7,162人、有楽町囲碁センターは17,380人、関西総本部の梅田囲碁サロン19,197人、中部総本部10,700人、合算して102,142人が利用しました。

##### （3）インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上やスマートフォン、タブレットで手軽に対局を楽しめる環境を提供し、およそ475万局の対局が行われました。

##### （4）貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

#### 5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競

うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりは、新型コロナウイルス感染拡大により 7 県での開催に留まり 311 人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(3) 情報会員

情報会員向けにホームページ上に認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(4) 幽玄の間

『幽玄の間』で一定の条件を満たして免状申請された方に、レーティングによる免状発行を行いました。

## 6 囲碁大会の開催

各都道府県において現地の囲碁愛好者が運営する県の日本棋院県本部あるいは・県支部連合会と連携し、または 515 支部の協力を得て、囲碁大会の主催・後援等を行いました。

### 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下のための四大全国大会は各県予選も含め全て中止となりました。

- (1) 第 44 回文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会：中止
- (2) 第 17 回文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦：中止
- (3) 第 41 回文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会：中止
- (4) 第 10 回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦：中止

一方で東京地区限定のこども大会やイベントは、感染対策を施し定員を絞ることで 2020 年 12 月から徐々に再開、日常での対局の機会が減った多くの青少年と保護者から歓迎されました。

・中止となった大会

ジュニア囲碁フェスティバル(ガーデンテラス紀尾井町)：中止

渡辺和代キッズカップ(東京本院)：中止

・感染対策を講じて実施した大会

ジュニア囲碁パーク(東京武道館)：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団主催。2021 年 1 月 30 日実施。入門から有段者まで 120 名参加。

ロッテこども囲碁大会(東京本院)：株式会社ロッテをメインスポンサーに、朝日新聞社、朝日学生新聞社、小学館、幻冬舎等の協賛の下、入門から有段者まで 350 名参加。

### 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

一般向け大会も多くが中止となりましたが、一部の大会では代替イベントを実施し好評

を博しました。また 2021 年 3 月には女流アマチュア選手権全国大会を開催、全国大会復活第一号となりました。

(1) 第 12 回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦：中止

級位戦から名人戦まで 9 クラスに分かれての棋力別大会。全国 12 都市 13 会場 15 大会により延べ 10,000 名以上の参加を予定していましたが、すべて中止となりました。代替企画として 2019 年度の第 11 回大会参加者に郵便で詰碁クイズを出題。成績に応じて宝酒造株式会社製品や日本棋院プロ棋士とのネット指導碁をプレゼントし、次年度へのつなぎとして大好評でした。

(2) アマ名人戦、アマ本因坊戦、アマ竜星戦(世界アマ日本代表決定戦)：中止

アマチュア碁界三大棋戦であるアマ名人戦、アマ本因坊戦、アマ竜星戦(世界アマ日本代表決定戦)は、全国大会、各県予選とも中止しました。

(3) 第 63 回全日本女流アマチュア選手権大会：2021 年 3 月 13-14 日開催

女流のアマチュアを対象とした大会。3 月 13、14 日に日本棋院東京本院で全国大会を実施、コロナ以降全国大会の最初の再開例となりました。代表選手の選抜にあたっては各県で対応が分かれ、予選が実施できず推薦となった県もありましたが、最終的に 84 名の代表選手が集結。埼玉県代表内田祐里さんが女性のアマチュア日本一に輝きました。

(4) 第 57 回女流アマチュア都市対抗戦：中止

女流のアマチュア 5 名 1 チームの団体戦で、アマ碁界最大規模の都市対抗戦。2020 年 10 月の新潟開催を目指して準備を進めておりましたが、状況を鑑み中止となりました。

(5) 阪急納涼囲碁まつり：中止

(6) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ日本代表決定戦 県予選

2019 年度から世界アマ日本代表決定戦はアマ竜星戦と合併、アマ竜星戦が中止となった本年は、世界アマ日本代表決定戦県予選も中止となりました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、コロナ渦においても 8 県、405 人が参加しました。

(7) 全国規模イベントへの参加

11 月 2、3 日に岐阜県大垣市で行われる予定だった「ねんりんピック岐阜 2020 囲碁交流大会」が開催延期となるなど全国規模のイベントはほぼ見送られました。

(8) インターネット大会

例年行っていた「幽玄の間」を利用した大会は、AI 対策の難しさなどもあり開催を見送りました。

(9) その他イベント

・打ち初め式：中止。

「囲碁の日」にちなみ 1 月 5 日に各会館で開催してきた打ち初め式は状況を鑑み中止。

- ・ジャンボ大会、オールアマ団体戦等の団体戦：中止。  
囲碁ファンの交流の場として人気の団体戦は、参加人数が十分なスペースが確保できないため、中止となりました。

### 6-3 国際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力

第15回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦

8月3日から8月29日まで、ネット対局にて開催され、日本からアマ代表の大関稔選手が出場し、準優勝の成績を修めました。

## 7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ、毎年表彰しております。ただし例年3月末に実施している合同表彰式は、新型コロナウイルスの感染予防のため、令和3年度は実施いたしませんでした。

#### (1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第50回大倉喜七郎賞

馬場 滋 日本棋院棋士九段 (中部総本部所属)

中園 清三 名誉アマチュア本因坊、元サンシャインシティ囲碁サロン支配人

#### (2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が囑望される棋士に贈呈されます。

第58回秀哉賞

一力 遼 天元・碁聖・竜星

#### (3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」(昭和42年)によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第54回棋道賞 (段位タイトルは受賞時)

最優秀棋士賞 井山 裕太 碁聖・名人・本因坊

優秀棋士賞 一力 遼 天元・碁聖

新人賞 関 航太郎 新人王

女流賞 藤沢 里菜 女流本因坊

国際賞 一力 遼 天元・碁聖

最多勝利賞 一力 遼 天元・碁聖 53勝 (18敗)

勝率第1位賞 一力 遼 天元・碁聖 0.803 (53勝 18敗)

連勝賞 長徳 徹志 三段

(14連勝 2020年4月2日から2020年9月7日)

最多対局賞 一力 遼 天元・碁聖 66局

#### (4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

令和2年度 第17回殿堂入り 藤沢 秀行 (1925年－2009年、日本棋院棋士)

## 8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

### (1) 雑誌、新聞の発行

#### ① 「月刊碁ワールド」定価990円 毎月20日発売 B5判 152頁建

中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。井山棋聖9連覇、本因坊文裕9連覇、一力遼碁聖初の七大タイトル獲得、芝野十段最年少三冠達成、藤沢里菜女流五冠等の話題を取り上げております。

#### ② 「月刊囲碁未来」定価770円 毎月5日発売 B5判 100頁建

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための講座・読み物、布石・定石等の問題を多数掲載しました。

#### ③ 「週刊碁」定価330円 毎週月曜日発行 新聞タブロイド判 20頁建

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成となります。

#### ④ 「囲碁年鑑」定価3,850円 年1回発行 B5判 396頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑等を掲載しております。

### (2) 電子媒体による情報提供

#### ① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、棋戦情報、大会・イベント情報、棋士に関する情報、出版情報など、囲碁に関する様々な情報記事を提供しています。

年間1,300件以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新し、全世界で延101万ユーザーから年間1,802万（前年比+82万）アクセスがありました。

#### ① 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を2,000局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページ上でも中継棋譜の

再生が出来る仕組みを提供しています。そのほか、AI の評価値表示機能の提供や同好会機能による囲碁ファン同士の交流も行なっています。

## ② 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60 年以上に亘る、6 万 6 千局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

## ③ 囲碁アイランド

主に若年層の入門を促進するため iOS と Android で囲碁アイランドの提供を平成 27 年より開始しました。アニメーションと問題を解いて囲碁のルールを覚え自然に上達できる本ソフトは利用者から好評をいただいています。

## ④ 電子書籍アプリ

iPhone&iPad 端末からは「i 碁 BOOKS」、パソコンからは「e 碁 BOOKS」として週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、書籍を電子書籍アプリで配信していましたが、2021 年 3 月 31 日にサービスの提供を終了しました。また、2021 年 2 月 1 日より Amazon 社の Kindle にて電子書籍の販売を開始いたしました。

## ⑤ YouTube「日本棋院囲碁チャンネル」

2018 年 2 月に映像配信サイト「YouTube」上に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、棋戦や表彰式をライブ配信しました。新たに「本因坊戦挑戦手合」「王座戦挑戦手合」などを配信し、配信イベント数 145 回、チャンネル登録者数 24,608 名（前年比 +10,906）、視聴回数 4,658,631 回（前年比 +3,258,987）、総再生時間 1,683,955.5 時間（前年比 +1,165,156 時間）でした。

## 9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。令和元年度入館者数は 3,800 人、特別対局室見学者は 450 人。

## 10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

### 10-1 有楽町囲碁センター

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 月 2 日より 6 月 2 日まで休業しました。営業再開後の来場者数は、6 月は 1,337 名（前年同月比 26%）、10 月は 2,048 名（同 43%）と徐々にお客様が戻りましたが、その後の感染拡大第 3 波、緊急事態宣言の再発令の影響で、再び客足が遠のきました。3 月の非常事態宣言解除後は、徐々に増加しておりますが、年間のべ来場者数は、17,380 人（令和元年度は 49,325 人）と大きく減少しました。

棋力認定大会をはじめとするイベントは、12月より小規模なものから再開し、4大会で180名を集客しました。

## 10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統括し、本年度はコロナ禍で非常に厳しい状況の中、実施可能な囲碁普及活動を通じて社会に貢献に取り組みました。

関西地域の普及拠点である「梅田囲碁サロン」および「茶屋町囲碁サロン（会員制）」を運営し、感染対策を徹底した各種イベント、貸室、懇親会そして教室等を行いました。

### (1) 各種大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル————— 中止
- ・阪急電鉄 納涼囲碁まつり 大阪————— 中止
- ・尼崎こども囲碁本因坊戦 2020————— 中止
- ・第17回寝屋川囲碁将棋まつり————— 中止
- ・定例段級位認定大会 —————（年5回開催 277人、1回中止）
- ・級位者大会〔年4回〕および各種親睦大会〔年7回〕—（合計471人）

### (2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

・「梅田囲碁サロン」は4月の緊急事態宣言による休館措置、コロナ感染拡大防止措置による時短営業等を行い年末年始以外、営業し普及に努めました。会館ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日、有段者の集いを開催し、貸室利用においては囲碁学校、入門教室をはじめ各種団体の勧誘を行い、また、販売サービスとして盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えの充実にも努め、快適な環境改善に取り組みました。コロナ禍により入場者数は年間8,012人（昨年19,197人）と大幅減となりました。

・「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトに会員制囲碁サロンとして大阪市北区茶屋町で営業しております。今年度は上記同様にコロナ禍の影響により会員数22名（昨年比14名減）と減少しましたが、法人会員は昨年同様5社を維持ですることができました。引き続き新たな顧客ニーズに対応した普及を行っております。

### (3) 大学での囲碁講座開設への取り組み

令和2年度は関西圏において大学2校（京都大、大阪大）でリモートによる囲碁講座が取り入れられました。残念ながら1校（近畿大）が休講となりましたが引き続き若者層への普及拡大として今後も各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行います。

### (4) 小中学校および当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及活動

コロナ禍の影響により関西の小学校や幼稚園等への囲碁授業を導入等の働きかけやすでに小学校等で行われている囲碁教室等がほぼ休止および中止となり普及活動が実施できませんでした。また、市町村などに普及活動として毎年行っている地域主催の大会への運営援助についても大会自体がほぼ中止となり、普及活動ができない状況となりました。

### 10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・日経杯新春囲碁大会 (50人)
- ・中日段級位認定大会【5回】 (384人)

令和二年度は多くのイベントが中止となりました。

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・中日新聞社主催「第61期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実に努めました。入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、講習会を全11講座開設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。「入門初級講座」「よく分かる囲碁講座」「こども教室」「ジュニア有段教室」「実力向上講座」「レディース講座」「目指せシングル級講座」「目指せ初段講座」「特別高段講座」「総合講座」「モーニング講座」

また、毎週日曜日に入門者を受け入れる体制を整えており、普及活動に努めております。

(4) 部屋の貸付

令和2年度は、6社に対して部屋の貸付を行いました。引き続き、ご入居に向けて取り組んで参ります。

(5) 法人会員

令和2年度は、7年ぶりに新規で1社御入会を頂くことが出来ました。

特別賛助会員3社、特別会員7社、法人会員22社、合計32社よりご支援頂いております。

### 10-4 海外囲碁センター

(1) 2014年5月ニューヨーク碁センターを売却して得られた資金によりアメリカ囲碁協会（AGA）と提携して米国NPO法人『岩本北米基金＝I N A F』を創設し、アメリカ東海岸センターの活動促進や、日米文化交流・指導プログラムなど北米での囲碁普及活動の支援をしています。

(2) シアトル碁センターは全米各地から来場する囲碁ファンが増えており、北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターの活動を支援するため、毎年シアトルへ棋士派遣を行う等、現地法人と連携を取り合っています。

(3) ブラジル・サンパウロにあるブラジル日本棋院（南米本部）は、建物の老朽化に伴い補修を行い、現地の組織体制も一新され、南米での囲碁普及活動を行っています。

(4) オランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センター（EGCC）は、建物の老朽化のため修繕を行いました。建物の維持運営は難しい状況で、2020年1月から閉館しています。本センターの物件を売却し、その資金で新囲碁基金を開設し、ヨーロッパの新たな囲碁普及活動を目指す予定です。

## II 収益事業

### 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

#### （1）免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。免状は、棋力の証明となるもので、9級から八段までの988通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

#### （2）普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、従来の初段以上から9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を拡大し、指導者の充実を目指しました。六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。指導員の理解を深めるための指導員研修会と公認審判員講習会は新型コロナウイルス感染拡大のため開催を延期しました。

### 2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では2F、4F～6F部分を他法人に賃貸しました。

### 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

#### （1）販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

#### （2）書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書等、囲碁に関する書籍を、日本棋院の各拠点及び全国の書店にて販売しております。また、本年度につきましては「私と井山」、「張栩の捨石詰碁（上・下）」の3種の新刊を発行しております。

## Ⅲ 管理部門

### 1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。令和2年度は、内部統制取組方針に基づき、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、ヘルプデスクの設置等の改善取り組みを実施しました。

### 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図りました。囲碁ナショナルチームの「GO・碁・ジャパン応援募金」、小・中・高・大学等での囲碁授業向けの「がっこう囲碁普及基金」、法人賛助会員等の維持拡大を図り、囲碁の普及のために有効活用を図りました。

なお、個人と法人向けの「GO・碁・ジャパン応援募金」「がっこう囲碁普及基金」は、それまでの所得控除に加え、平成28年3月から税額控除の対象として証明を受けています。

### 3 広報対応と棋士のメディアへの露出

一力遼二冠や芝野虎丸二冠、藤沢里菜五冠や仲邑菫二段などのニューウェーブの活躍によって、メディアへの露出が大幅に増えております。特に仲邑二段においては、最年少記録更新があるたびにNHKのニュースにも報道されるようになってきました。最近バラエティー番組をはじめに、これまで取り上げられたことがない媒体から取材オファーが入るなど、囲碁の認知度が急速に高まっています。

## Ⅳ 管理部門

### 1 「100周年ビジョン」の推進（別紙）

## 役員等に関する事項

令和3年3月31日現在

役名	氏名	就任年月 日	担任職務	備考
総裁	今井 敬	H16.7.13	総裁	日本製鉄株式会社 名誉会長
顧問	石田 芳夫	R 2.6.23	顧問	日本棋院棋士 九段 24世本因坊秀芳
理事長	小林 覚	H31.4.2	理事長	日本棋院棋士 九段
常務理事	柳 時熏	R 2.6.23	コンテンツ事業部	日本棋院棋士 九段
〃	後藤 俊午	H30.6.26	関西総本部	日本棋院棋士 九段
〃	大淵 盛人	H26.6.24	総務人事部、財務部、経営企画室	日本棋院棋士 九段
〃	青木喜久代	R 2.6.23	棋戦企画部	日本棋院棋士 八段
〃	宮崎龍太郎	H30.6.26	事業部、普及部、広報室	日本棋院棋士 七段
〃	武田 祥典	R 2.6.23	中部総本部	日本棋院棋士 二段
理事	石村 和彦	R 2.6.23		国立研究開発法人産業技術総合研究所 理事長
〃	岩田 一	R 2.6.23		日本棋院棋士 九段（退役）
〃	遠藤龍之介	R 2.6.23		フジテレビジョン 代表取締役社長 COO
〃	佐川八重子	H30.6.26		株式会社桜ゴルフ 代表取締役
〃	角 和夫	H25.6.25		阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループ CEO
〃	高濱 正伸	H30.6.26		花まる学習会代表
〃	外池 徹	H30.6.26		アライドメディカル代表取締役、ア ブラック元相談役
〃	松浦晃一郎	H23.6.21		元ユネスコ事務局長、日本ペア碁協会 理事長、世界ペア碁協会会長
〃	柳本 卓治	R 2.6.23		囲碁文化振興議員連盟 会長
〃	吉川 正夫	R1.6.25		大成建設株式会社 常務執行役員
監事	大内 隆美	H30.6.26		一般社団法人構想日本 プロジェク トリーダー（公益法人担当）
〃	藏本 隆	H30.6.26		公認会計士、税理士
〃	橋本雄二郎	H30.6.26		日本棋院棋士 九段

## 令和 2 年度 事業報告

令和 2 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 3 年 6 月

公益財団法人 日本棋院